

フェロモンを使ったハスモンヨトウ防除!

フェロディン[®]SL

成分 リトルア5mg (リトルアA 4.55mg, リトルアB 0.45mg)

(リトルア剤)

ハスモンヨトウ 加害作物栽培地帯に

(いも類、豆類、あぶらな科野菜、なす科野菜、レタス、れんこん、
にんじん、ねぎ類、いちご、たばこ、まめ科牧草など)

特長

ハスモンヨトウのオス成虫を広域的に大量に誘殺するので…

- 次世代幼虫の発生密度が低下します。
- 薬剤の散布回数を減らせます。
- 薬剤による適期防除ができます。

設置作業が簡単で労力がかかりません。

ハスモンヨトウのメス成虫が出す性フェロモンを基に製剤化したものです。

- 天敵など他の生物にはほとんど影響しません。
- 薬剤抵抗性が発現する心配はありません。

経済的です。



ハスモンヨトウ成虫(♂)



フェロディンSLとファネルトラップ

ハスモンヨトウによる被害



ねぎ



だいず



いちご



さといも



レタス



なす

フェロディン[®]SL (リトルア剤) の使用方法

フェロディンは住友化学(株)の登録商標

1 広範囲に使用する

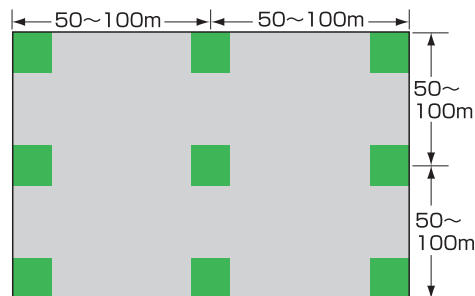
防除対象地域はハスモンヨトウ加害作物栽培圃場を含むできるだけ広範な地域(10ha以上)とし生産団地を中心に共同で使用することが望まれます。また、毎年繰り返し使用することが効率的防除に繋がります。

2 早い時期から使用する

被害を軽減するためには、成虫の密度が低い発生の初期(4~5月)から終期まで連続的に使用する必要があります。

3 トラップの使用量

標準設置量は1ha当たりトラップが2~4台です。圃場の周辺部に50~100mの間隔で設置します。(本剤の誘引範囲は半径60m前後です)

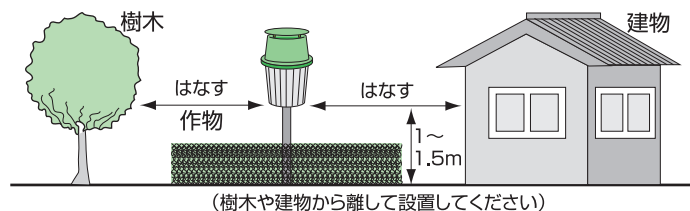


4 設置方法

トラップは風通しの良い場所に、地上1~1.5mの高さ(作物よりも高い位置)に固定します。なお、本剤は1.5~2ヶ月経つと誘引効果が低下しますので、新しいものと交換する必要があります。

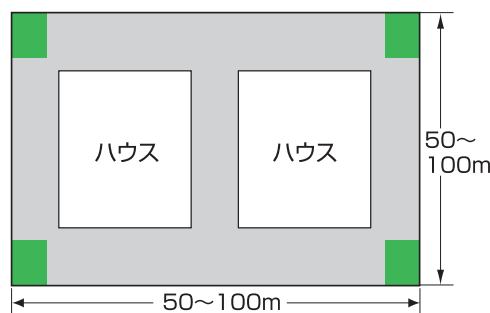
5 効果の評価

本剤によるハスモンヨトウの防除は薬剤防除と違って速効的ではありません。各種の手段を上手に組み合わせて総合的に防除することが肝要です。



6 施設栽培での使用方法

夜間サイドが開放されている時は、ハウス外の周辺に50~100mの間隔で設置してください。夜間サイドが閉じられている時は、ハウス内の中央に設置してください。



7 管理

トラップ設置中はハスモンヨトウ発生密度に応じて巡回し、トラップが捕殺された成虫でいっぱいになる前に処理してください。

8 貯蔵

直射日光を避け、なるべく低温な場所に保管してください。

適用害虫と使用方法

適用場所(作物)	使用目的	適用害虫	1ha当り使用量	使用時期	使用方法
ハスモンヨトウ 加害作物栽培地帯 (いも類、豆類、 なす科野菜、 あぶらな科野菜、 レタス、れんこん、 にんじん、ねぎ類、 いちご、たばこ、 まめ科牧草 など)	誘引	ハスモンヨトウ 雄成虫	2~4個	成虫発生初期 から発生終期 まで	本剤をトラップ 1台当り1個を取 付けて配置する。 取付けた薬剤は 1.5~2ヶ月間隔 で更新する。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

この印刷物の記載内容は2016年7月現在のものです。